

平成 27 年 3 月 24 日
第 26 期東京都立図書館協議会

平成 25 年度都立図書館自己評価に対する意見

第 26 期東京都立図書館協議会は、第 8 回定例会（平成 27 年 3 月 24 日開催）において、東京都立図書館が実施した「平成 25 年度東京都立図書館自己評価」に対し、意見を述べた。

今回の自己評価の結果については、充実した内容であり評価できるものであるが、更に改善する視点から、以下を意見としてとりまとめた。

【評価の手法】

○評価の目的はあくまで改善である。改善はこのようにやってきたというところが都民の方々にさらに見える形にするとよい。

○（指標の数値について）前年比等、何らかの基準に対する増減があるとわかりやすい。ただし、数値が上がるのが必ずしも目的ではないため、例えば減少した数値については、「なぜ下がったのか」「何らかの理由があって下がったのか」等、分析するところに力をいれるとよい。

○（潜在的利用者層のニーズの把握について）来館していない方、めったに来館しない方のニーズを汲みとることは非常に大事。しかし不特定多数の都民にアンケート票を送るということは効率的ではないので、それ以外の方法、例えばマスメディアや雑誌、新聞記事の動向の分析など、多角的な方法でニーズを汲みとるということを行ってはどうか。

○（デジタル化した資料のインターネット公開により）インターネットの利用が増えることによって来館者数が減るということも当然起こり得ることであるし、その方が利便性が高まっているという評価もできる。単純に来館者数減だけを問題にするのではなく、インターネット等の利用と合わせて複合的な評価をするとよいのではないか。

○（ニーズの把握の方法について）単にアンケートをとるだけでなく、フォーカスグループインタビューなども検討してはどうか。

【評価の活用】

○来館者の属性分析を行い、その上でターゲットを限定して戦略を練る、あるいは広報を打つという形がいいのではないか。

○単に公表するだけでなく、図書館の活動において土台にしていくべきものである。

【その他】

○都立図書館は東京の中心、全国の中心ということで見本にならなければいけないということはあるとは思いますが、もう少し冒険してみるとか、実験的なことをしてみるといったことを期待する。

○海外の事例を研究し、それを日本の公共図書館に取り入れるといったような、日本の公共図書館を牽引するような役割を果たしてほしい。

○今後、益々多くの都民の方を引きつけるようなことや、サービスの拡充に努めていくべき。